

川 山と里とをつなぐ

◇山学校川学校

ああ、山学校はしょっちゅう。夏なってくっとお、家出はってって、川さ行って、あの橋（升沢橋）こいでぐの嫌（や）んだくなっと、川さ降って魚っこ捕りしで。あど、いい加減なころ、帰（け）ってきて。…なに、ほだってえ、その当時は平気なんだもん。先生も、来ねえでも言わねえし。あどは秋になっどほら、クリっこだり、アケビだり、なんにも食いものねえから、アケビだりソゾミだり、あゆのまで食ったんだね。あれ甘酸っぱくてうめかったんだ。あとコクワの実だの、サクランボ、山桜のさ。ちっちゃいのと、大っきいのと、やっぱあったんだ、山にも。「ああ、こいつは大きいや」ってさあ。魚っこ捕りは、子どもだから、ばあっこ（少し）流れてっとこ止めて、で手でつかんで。カジカ・イワナ・ヤマベ、あどウナギも来たんだよな、夏なると。アユも上って来たんだよ、あの橋（升沢橋）あたり、ちょっと上まで来たんだよな。サクラマス来たよ、大っきいやつ。あれ、うめがったなあ。あれ、おかずに、一回に一切れ食（か）んねんだ、食うのいだしから、次の日さ残（のご）しでて。

（『升沢にくらす』p224）

◇みんなで水力発電

ほら、電燈（でんき）点がんねえからね、升沢さ。あの、おら家（い）の後（うっしょ）さ、堀（ほ）この水で、発電機、（電気）起（おご）して。全部で八軒すか、全部引っ張ったんでねえのかや。あれ、だって、ほんなに点けらんねえんだおん、ほのタービン小せえぐて。一軒一燈、あとラジオね、10 ワットだから。（今では）暗（く）い。でも、電気だからね、なんでも出来（で）んだっちゃ。

そして、今（いま）ころ、木の葉落ちとねえ、そごさ、葉っぱ、今（いま）うっんど流れてくっから。（木の葉で水流（すいりゅう）が弱（よ）まって）暗（く）くなんのしゃ。おら家（い）さ何（なん）人（ひと）か来（き）でて、葉っぱ取（と）っさ行（い）ぐんだっちゃ。そうすとまた灯（あかり）がパーッと、明（あ）るくなんの。たーいへんなの、寒（さ）みいから。うん、毎（まい）晩（ばん）交代（こうたい）、今日（けふ）はどこそって、二人（ふたり）ずつね。何時（なんじ）までって、決（き）まってて…八（は）時（じ）、九（く）時（じ）かや。十（じゅう）時まで点（て）けでたんでねえ。

ほんで、ラジオ買ったんだおん、ほれ。うん、楽しみだったねえ、（ラジオ）聞（き）ぐのね。あのアンザイアイコさん、唄（うた）歌（うた）ってっ時（とき）だから。毎（まい）朝（あさ）ラジオさ出（で）んだよお、あの唄（うた）、むかしの唄（うた）だから、小学校（しょうがっこう）唱歌（ていが）つつの、よぐ歌（うた）ったったの、朝（あさ）。「アンザイアイコさん歌（うた）っでるから、かけろはあ」って、（ラジオ）かけんかった。そのアンザイアイコさんつ人（ひと）ね、なんぼなっ時（とき）だかねえ、あの話（わ）に來（き）たのね、吉岡（よしか）まで。「あら、アンザイアイコさん來（き）つつあ」って、升沢（しやうさく）からね、何（なん）人（ひと）か來（き）たよ。

（『升沢にくらす』p.221）